

平成 28 年度 第 1 回豊中市図書館協議会 論点整理

(仮称) 南部コラボにおける図書館機能について

○生活・学習等支援拠点機能としても捉える必要がある。

○交流拠点機能

既に図書館が行なっているレフェラルサービスで他機関との連携がすでに出来ている。
交流拠点機能を強調すると学習支援機能が疎かになりはしないか。

○その他図書館の機能・役割

- つないでいくのが図書館。図書館の持つ色々な機能を中心に据えてキャリアセンターであったり、市民活動であったりが出来るようになれば、コラボ全体が有機的に機能する。
- 既に持っているサービスの中で図書館機能を整理していくことで、図書館が持つ資源を最大限生かしていく。
- 色々な地域の情報を収集整理し、地域の住民にフィードバックする。
- 資料や情報の必要な人への提供と地域のその分野のスペシャリストにつないでいく。
- 学校連携
図書館の時間に学校から公共図書館を訪ね、授業に関する事を調べる。図書館の将来の利用者が育ち、公共マナーも学べる利点がある
- 居場所
「居場所」というのは物理的な場所でなく「図書館の働き」があつてのもの。
- 世代間交流
図書館を大人や高校生・大学生が利用し、集まって交わることで、生活と学習との関連性の理解につながる。
- 子どもにとって、ほっとできる敷居の低い図書館に
- 間口が広い図書館ではあるが、本当に責任を持って出来ることを提言の形でまとめる。

○コラボ全体

- 積極的に施設に関われない方々が多くいる地域には、機能有りきではない根本的な施設が必要
- 人口割合が 15 歳未満は低く 65 歳以上は高い特性をとらえて、地域活性化を図る必要がある。
- 千里コラボと徹底比較して南部は千里と全く違うやり方を探るべき。実際に南部地域に勤務している教員の話聞きながら進めていく。
- 災害時の拠点という視点は非常に大事